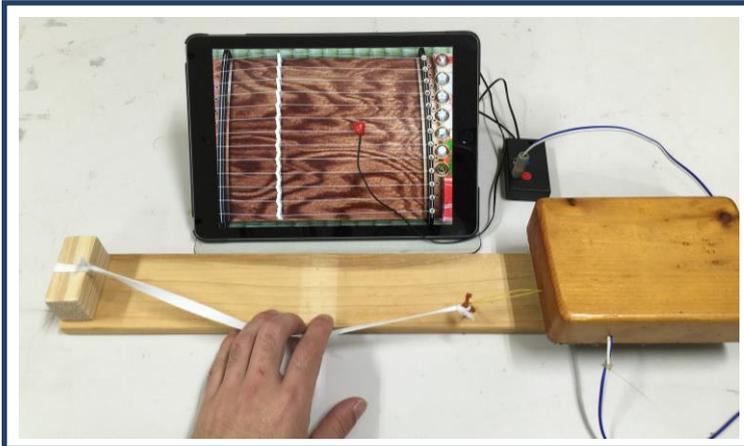


<図・写真>



<材料・製作方法等>

紐スイッチ 木材 ゴム紐

- ①細長い板の端に、ゴム紐を留めるための角材（ゴム紐を通す直径1センチ程度の穴を開けておく）をビス止め。
- ②板のもう一端に、紐スイッチをビス留めする（適度な高さを出すため、板と紐スイッチの間に厚い板を挟んで一度に留める）
- ③紐スイッチの紐を外し、幅のあるゴム紐に付け替える。角材に通し、程よい張力に調整し、ゴム紐を留める。

<ねらい>

- ・ 箏アプリで演奏する際のタッチ操作を、実際の箏を演奏する動きに置き換える。

<指導方法・留意点等>

- ①iPadの箏アプリ（「iKoto HD」¥840）の任意の糸（弦）上に、iPad タッチャー2のリレーを張り付ける。
- ②箏スイッチのモノラルプラグをiPad タッチャー2に接続する。
- ③生徒の活動しやすい位置に箏スイッチを置き、活動を促す。

<指導経過・成果・課題・展望等>

箏を演奏するには、①糸に指をかける、②指に力を入れて糸に圧を加える、③上肢の引き込みや指の強い曲げ動作で糸を弾く、④音が鳴っている間は手や指を糸から浮かして待つ、といった一連の動作が必要である。また、楽器自体が大きく、生徒によっては糸に指をかけることも難しい。

箏スイッチは箏の糸をイメージし、ゴム紐を横に渡している。軽い力で引っ張るとその時点でスイッチ ON 状態になる。引っ張っている間は ON が継続し、放せば OFF となる。手をゴム紐上に置く動作や、反対に、ゴム紐の直下に手を置いて待機し、手を上げる動作でも ON にすることができる。

箏スイッチを2台、iPad タッチャー2に接続すれば、箏の2音を鳴らし分けることができるため、「さくらさくら」の冒頭部を演奏できる。

箏アプリ用としてのみならず、従来の紐スイッチよりも幅広い動きに対応できるスイッチとしても活用できる。

